

抜歯が必要な時の 治療選択肢

まずは抜歯が適応される場合
を確認しましょう

1. 歯の材質がないとき



残存している歯が少ないと
被せものを支えることが
できません

2. 歯が割れた時



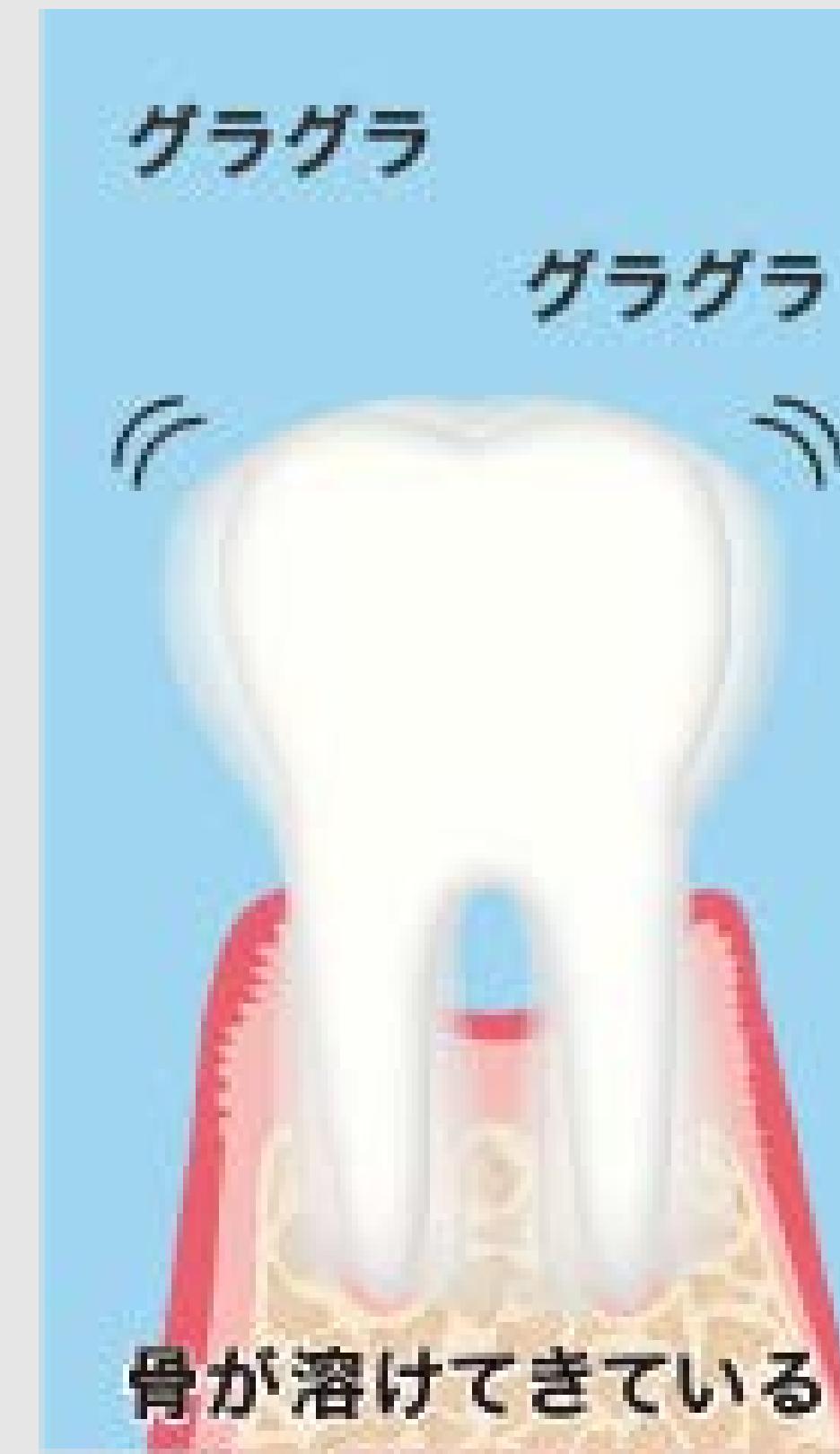
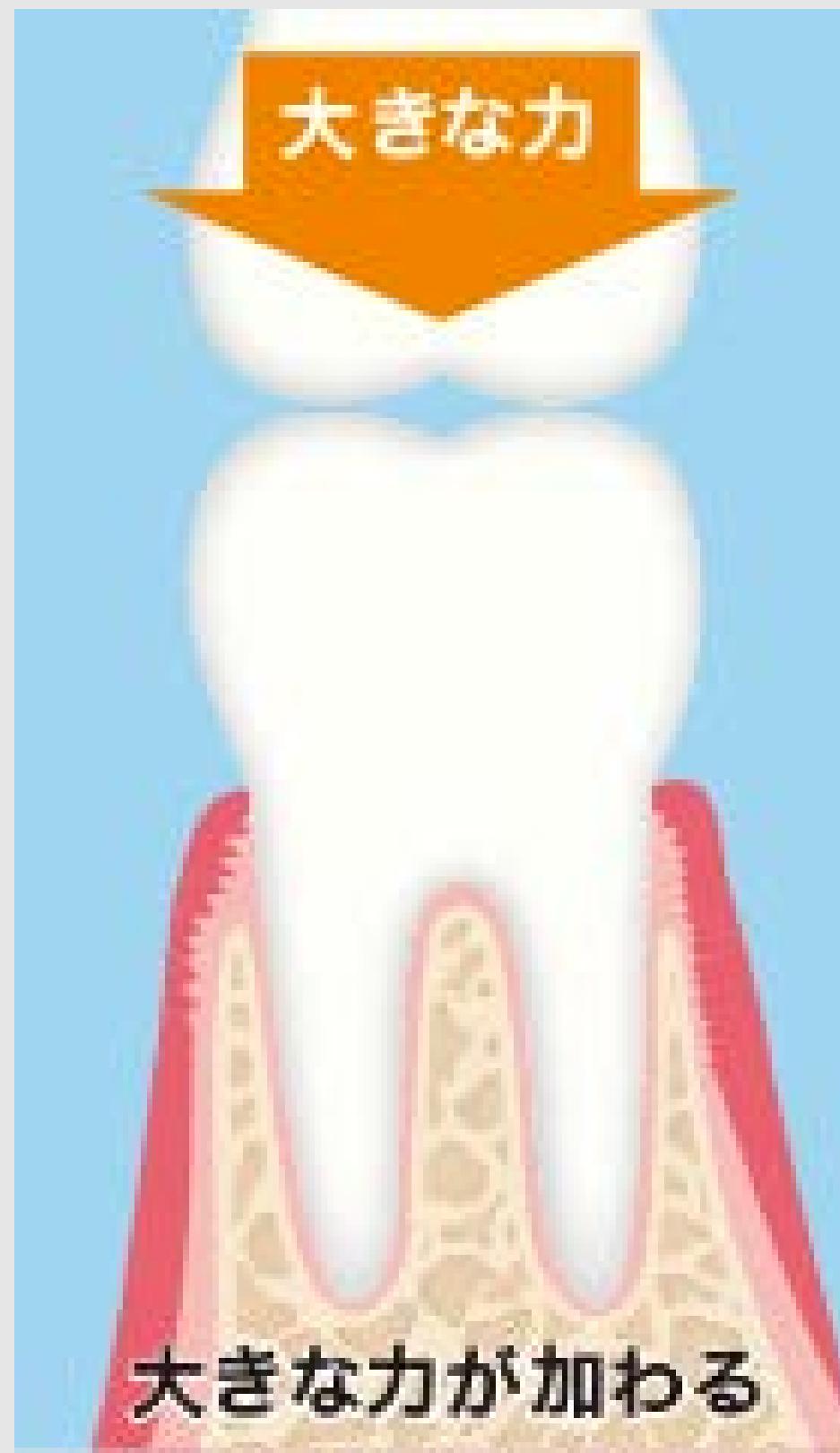
一度割れてしまうと、
くっつけたとしても、
噛む力が加わった時に
また割れてしまします。

3. 歯周病が著しく進行したとき



歯周病が進行すると、
歯を支えている骨がなくなり、
歯が揺れてしまい、
保存ができなくなります。

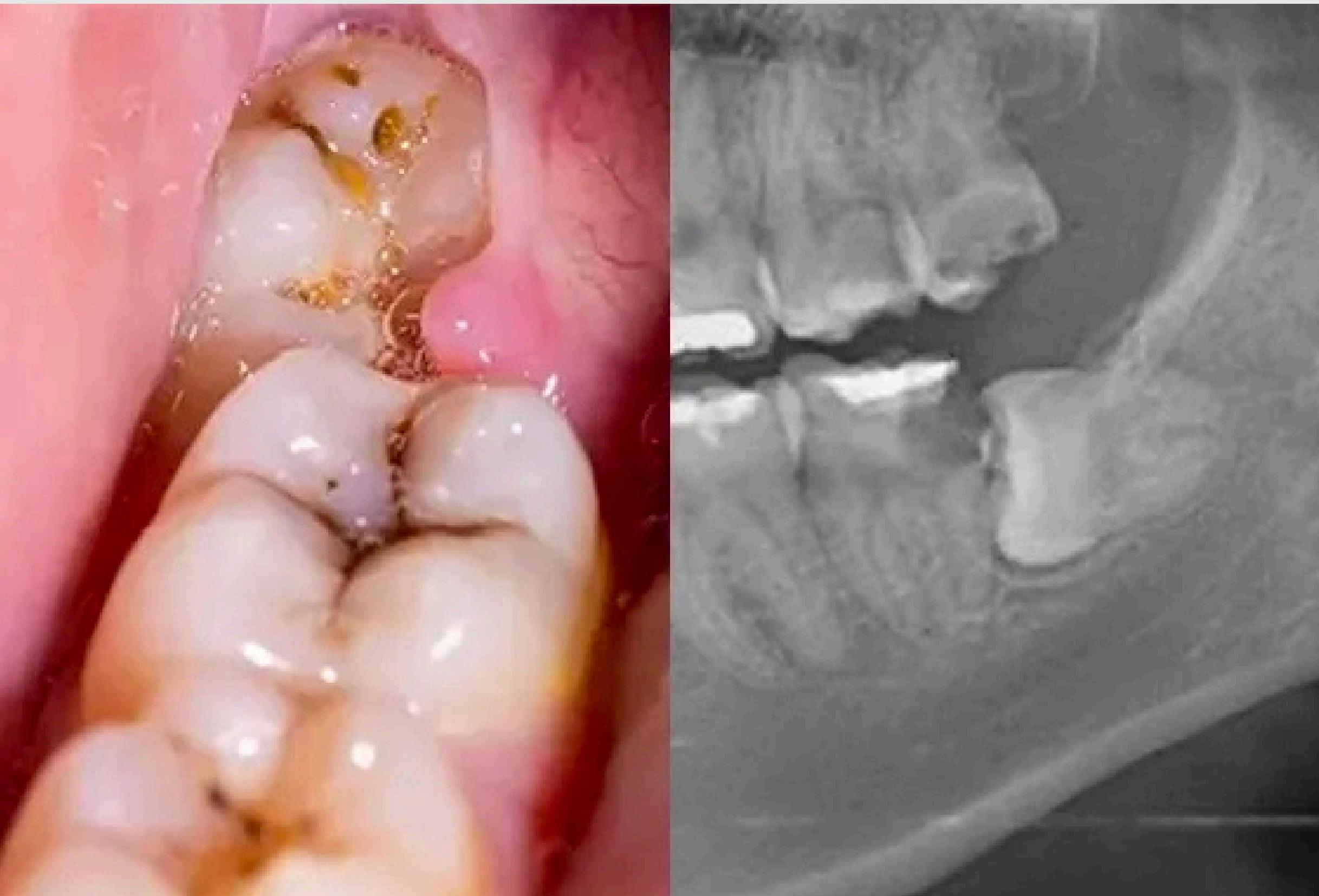
4. かみ合わせなど、 局所的な原因で歯が顕著に揺れる場合



5. 矯正治療のための便宜的な抜歯



6. 親知らずによる炎症や虫歯



次に抜歯後の選択肢について

選択肢

- 1 そのまま
- 2 矯正治療
- 3 部分床義歯
- 4 ブリッジ
- 5 インプラント

1. 抜いたままにする



メリット

- 追加の治療がない
- コストがかからない

デメリット

- 奥の歯が傾き、噛み合わせが変わる
- 顎関節症が生じやすい
- 奥歯が傾いた後の治療が複雑になる

2. 矯正治療



抜歯した隣にある歯を
移動させる方法

全体的な矯正治療を受けることが前提で、
なくなつた歯の位置も限定期である

3. 部分床義歯



メリット

- 歯をほとんど削らない
- 取り外せるので、衛生的である

デメリット



- 金具が見える
- 異物感がある
- 噙んだ感触は、自身の歯の5割程度
- 毎日洗浄が必要
- 適宜、調整が必要
- 何年かに一度、作り替えが必要





金属床義歯



ノンメタルクラスプデンチャー



コンティース

薄くて小さい

審美性に優れる

発音に特化



インプラントオーバーデンチャー



4. ブリッジ

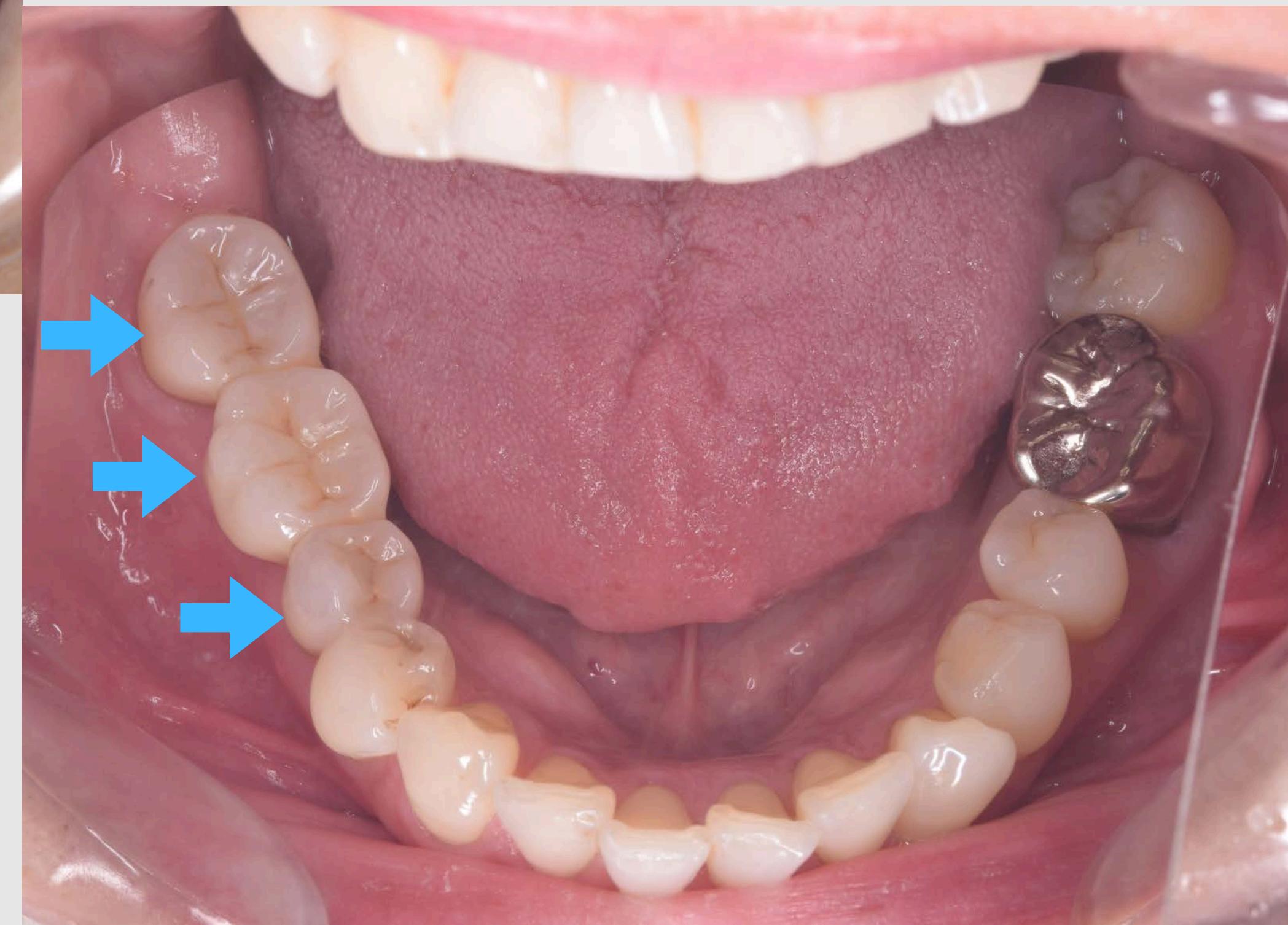
メリット

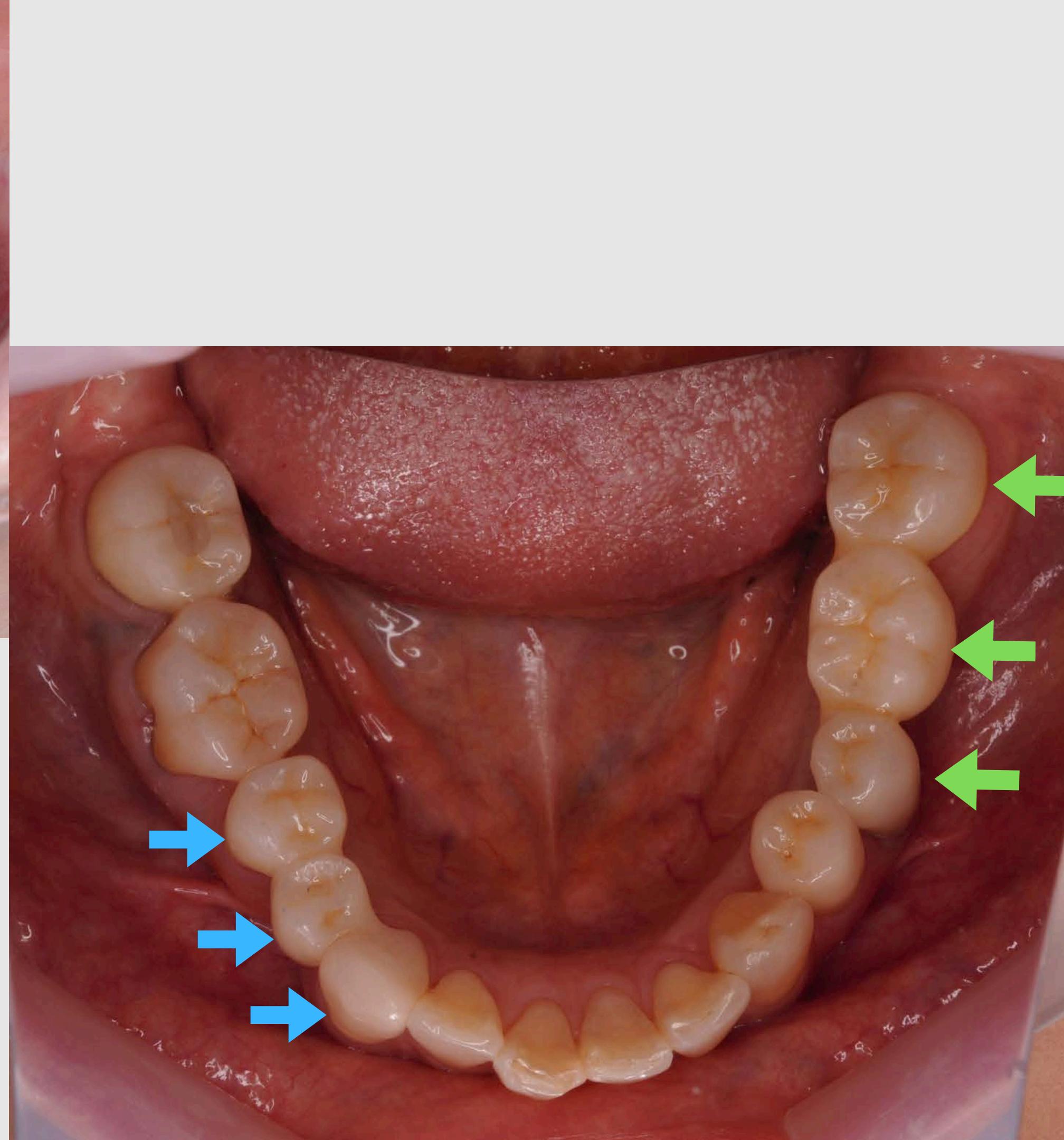
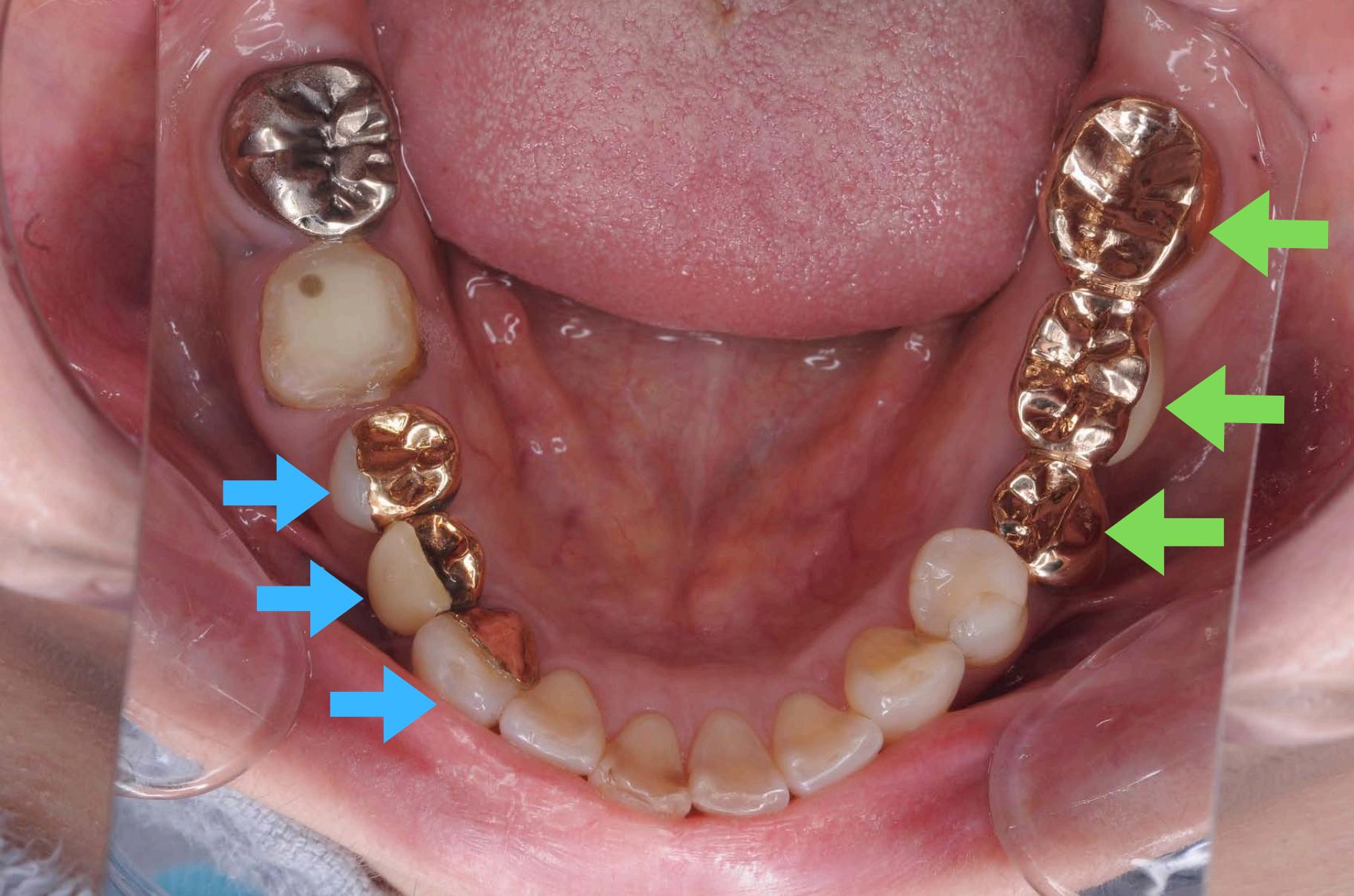
- 取り外しの必要がない
- 噛んだ感触が、自分の歯の様
- 入れ歯のような厚みや金具がない
- 比較的早期に治療が終わる

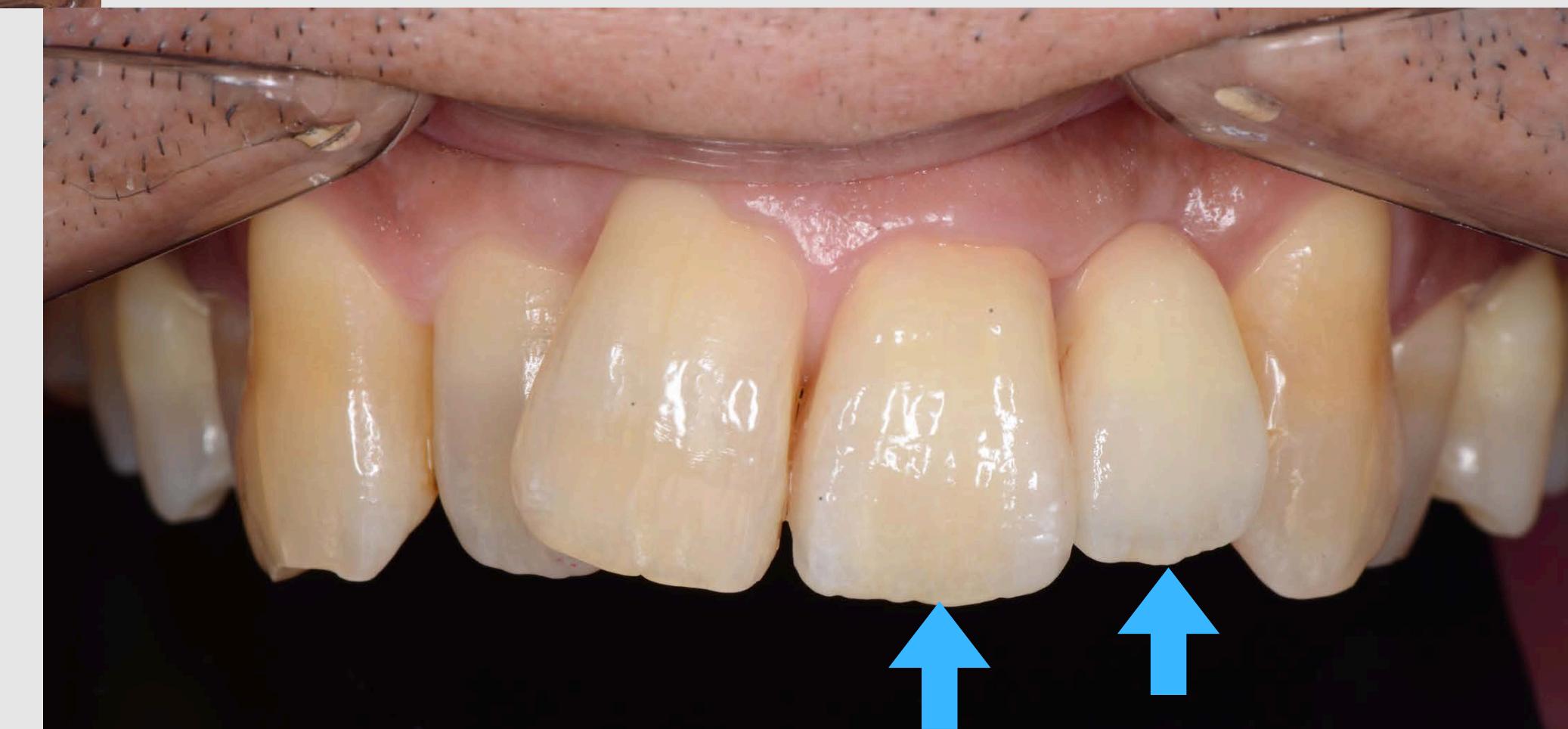
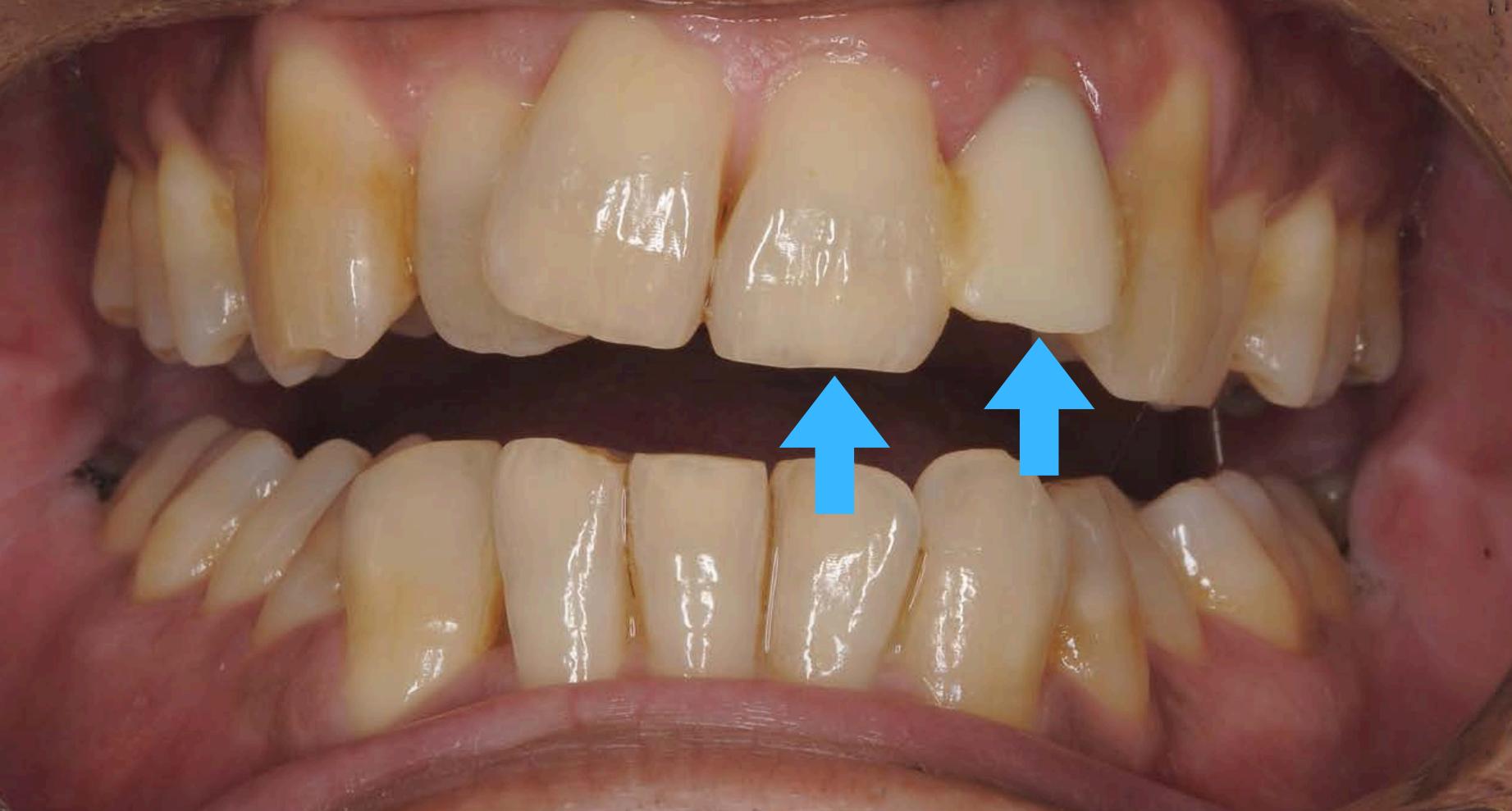
デメリット

- 両隣りの歯をたくさん削る
- ダミーの部分に汚れが溜まることがある



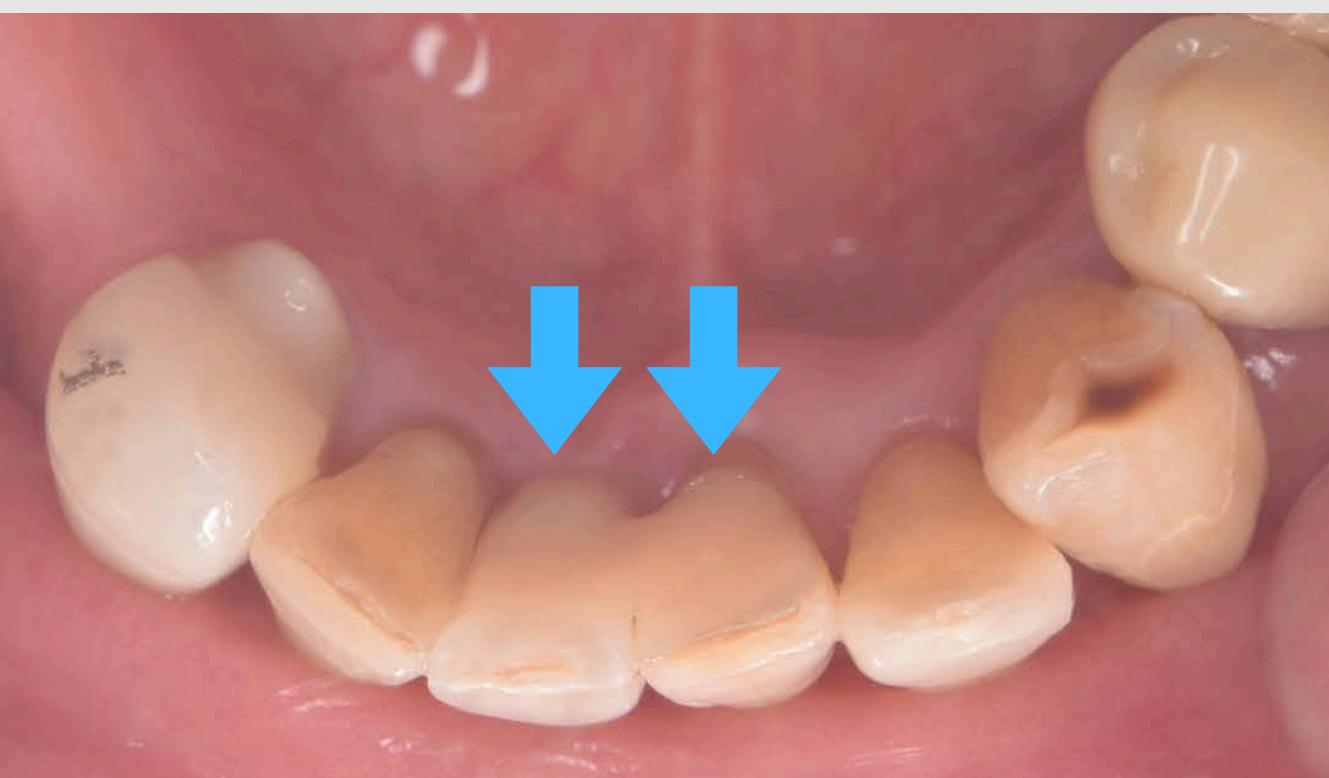






延長ブリッジ

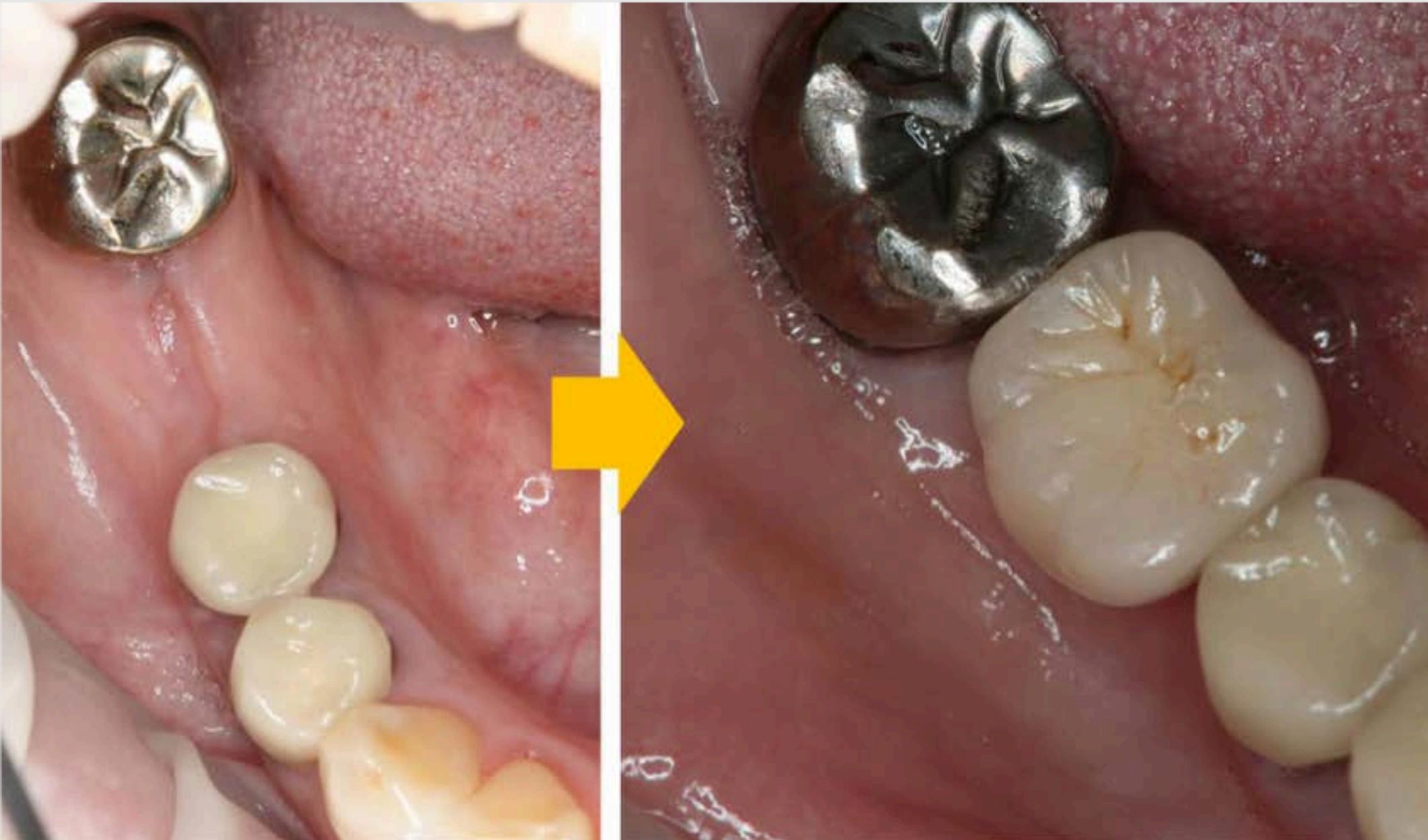
接着性ブリッジ



5. インプラント

メリット

- ・他の健康な歯を一切削らない
- ・自分の歯のように噛める
- ・審美的である



デメリット

- ・自由診療のみ
- ・設置後の定期的な管理が重要
- ・外科処置が必要

適応症

- 1 全身疾患による外科処置の制限がない
- 2 歯周病の状態が安定している
- 3 骨にある程度の厚みや高さがある
- 4 最終的な被せ物まで数ヶ月かかることが許容できる



